



# TOKYO 2020

## 大会延期に係る東京2020大会入賞メダル製造等業務委託の 契約変更について

国際局国際渉外部プロトコール課

Jan. 2021

# 1. 当初契約（2018年5月）

## ■ 契約件名

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルの製造等業務委託

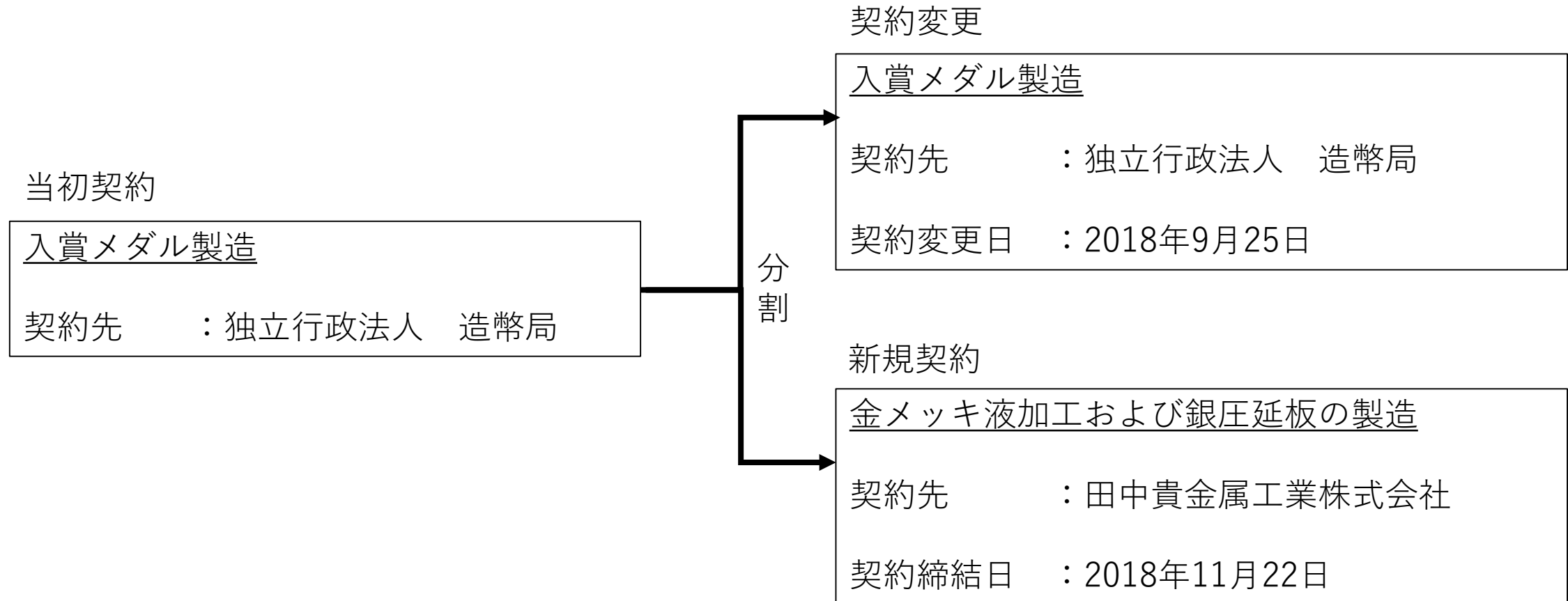
## ■ 契約内容

- ・ 受託者： 独立行政法人 造幣局
- ・ 締結日： 2018年5月24日
- ・ 契約種類： 特命随意契約
- ・ 選定理由： 以下2点から造幣局を選定
  - ・ 入賞メダル製造に必要となる要素（過去実績、製造能力、技術力、信頼性）すべてを満たす製造機関が造幣局の他に見当たらない点
  - ・ 入賞メダルデザイン開発プロセスにおいて有益なアドバイスを得られる点
- ・ 委託内容：
  - ・ 入賞メダルデザイン選定に際しての助言及びサポート
  - ・ 東京2020大会入賞メダル 約6,000個（当時想定数）の製造（金属の事前加工含）
  - ・ 製造した入賞メダルとメダルリボン（別途調達）の組み付け
  - ・ 製造した入賞メダルの配送 など

## 2. 第1回契約変更（2018年9月）

### ■変更の背景

当初造幣局への委託契約では金属の事前加工となる金定型塊から金メッキ液の加工、及び銀定型塊から銀圧延板への加工は造幣局から発注することとなっていたが、組織委員会が田中貴金属工業へ直接発注し、造幣局に支給することに変更。



# 3. 大会延期に係る入賞メダル長期保管追加経費

## ■背景

・東京2020大会延期に伴い2020年6月までに製造している入賞メダル（リボン組付け前の状態にて製造元である造幣局にて保管）を適正な環境で2021年大会まで長期保管するため、保管に係る費用が新規発生。

・以下の観点から、造幣局にて長期保管する方針。

- 造幣局外で長期保管し状態の悪いメダルを選手へ授与した場合のレピュテーションリスク
- 非常にデリケートな扱いが必要であり製造元である造幣局のノウハウが必要である点
- 造幣局は通貨管理等を行っており、保管に際し新たなセキュリティコストが不要である点
- 特に銅メダルは素材の特性上上表面状態が不安定であり製造後1年経過で補修を要するため一時的に外部移管した後、再度造幣局に戻し補修する為の輸送費や輸送時のリスクを考慮すると継続保管が望ましい点

## ■創意工夫等で削減した費用

- ・保管スペース（2部屋利用相当）に対する建物土地貸付料の免除：建物貸付料+土地貸付料
- ・保管部屋数を2か所から1か所に変更：電気使用料削減+設備投資費削減

### 3. 大会延期に係る入賞メダル長期保管追加経費

項目	備考
保険料	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 補償内容と保険料双方を考慮し最も適切な保険（運送保険、オール・リスク条件）を適用</li></ul>
電気使用料	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実費分</li></ul>
設備整備費	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保管場所へのビルトイン除湿器導入費用</li></ul>
状態維持費	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 表面状態が劣化した場合に、メダル本体は差替えることなく補修する費用</li><li>・ 銅メダルのみ固定費計上</li><li>・ 金銀メダルは発生都度単価設定のため10%を想定計上</li></ul>
差し替え用メダル製造費	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「状態維持費」の補修では対応できない深い傷などが付き再製造が必要となる場合の費用</li><li>・ 金メダルは不全想定の内りとして対応分を製造済み</li><li>・ 銀銅メダルは発生都度単価設定のため10%を想定計上</li></ul>